

特定非営利活動法人

# 白山の自然を考える会



会報 しらやま  
NO. 67

【理事長】 石野 洋  
【事務所】 〒921-8817  
石川郡野々市町横宮8-5  
コーポ小坂206

【事務局・連絡先】  
加藤正現

【郵便振替口座】  
「白山の自然を考える会」  
00700-0-8593

【定 価】 100円

【ホームページ】 <http://www2.nsknet.or.jp/~shizen>

大汝から朝の白山

撮影・木村芳文

(当会事務局)



清掃登山

(6月19日(日))・

指尾へ

竹中 正美

(当会事務局)

前日まで雨が降り続いて  
いましたが、当日、白山ひめ  
神社に11名が集まり市の  
瀬に向かいました。六万山の  
予定でしたが、超えたところ  
にある指尾まで行くことにな  
りました。一般参加の方が  
多く禅定道を楽しみにこら  
れた方、足慣らしに來られた  
方などさまざまな目的で参  
加されていました。

私も禅定道は初めてでわ  
くわくしていた反面、前夜は  
遅く、寝不足での参加だった  
ので、皆さん  
についてい  
けるか心配  
でした。  
歩き始め  
はとても急  
で、「ああ体  
がついてい

六万山



かないかも・・・」と内心思  
いながら歩いていました。

しかし回りにある草花は  
なんとも可愛く生き生き咲  
いていて「しんどい」という  
気持ちを紛らわせてくれま  
した。残念ながら植物の名前  
は全く知らなく、植物の名前  
をあげることはできません  
が、葉に船が乗っているもの  
や、ちくちくがあるもの、お  
花は小さい白いものが多か  
ったように思います。この急  
坂も1時間ほどであとは水  
平道で足よりも軽く、さらら  
らつらつ。遅れをとって山頂  
に到着した私達の前には別  
山の山頂が雲に覆われてい  
ましたが、そんなことは関係  
なく参加者全員で記念撮影  
しました。

楽しみにしていたお昼で  
す。山の中で食べるものはな  
んともいえなくらい美味  
しいものですよね。玉子にレ  
タスにクームチーズの入っ  
た手作りサンドイ  
ッチ。小さな容器に



めんつゆを凍らせ、そうめん  
をゆでたもの。冷凍みか  
ん・・・どこまで出るの？

しばらく休憩をとりあと  
は下るのみ。テクテク・・・テ  
クテク・・・本当にあつとい  
う間に下りてきました。あれ  
っ？先に下りたグループの  
方がキョロキョロ？！話を  
聞くと、わたしたちを待っ  
ている間に「ごみばさみ」を置い  
て、他の人たちと話をしてい  
たところ、私たちがついたの  
で、さあ出発しようというこ  
ろで、さつきおいたピカピ  
カのごみばさみが見当たら  
ない・・・？！

みんなを探しま  
したが本当にな  
くて・・・あれっ？  
動物？かみかく  
し？・・・六万山の  
不思議ー！！

そう今日はなんと清掃登  
山！山にはほとんどごみは  
落ちていませんでしたが、市  
の瀬駐車場はごみがちらほ  
ら・・・ここで10分ほどごみ  
拾いをして解散しました。



あのピカピカのごみはさみ  
はどこへ・・・



### 事務局 短信

5月10日(火)	石川県河川課と辰巳ダムの件で意見交換 (4名)
13日(金)	運営会議(12名)
22日(日)	自然観察会・吉次山(14名)
23日(月)	白山市長へ白山トンネル反対要望書提出 (4名)
26日(木)	石川県森林管理課と森林環境税の件で意 見交換(3名)
29日(日)	チブリ尾根巡検(15名)
6月 3日(金)	運営会議(13名)
5日(日)	かじかがえるの鳴き声を聞く会(4名)
16日(木)	事務局会議(2名)
19日(日)	クリーン活動・六万山(11名)
19日(日)	チブリ尾根巡検(9名)
7月 1日(金)	運営会議(7名)
5日(火)	県自然保護課とチブリ新歩道の件で意見交 換(4名)
23日(土)	チブリ尾根登山道草刈り(9名)
24日(日)	環境省、県とともにチブリ新歩道について 現地調査(7名)

# 事務局 長からの手紙

加藤 正現 (当会事務局長)

先日、北海道・知床が世界自然遺産に登録された。日本では、白神山地、屋久島に次いで3カ所目である。この登録によって知床の豊かな自然が永遠に守られることになるならば、これほどうれしいことはない。しかし、現実には白神や屋久島には世界自然遺産に名を借りた観光ツアーが企画され、多くの観光客が訪れることとなった。その結果地面が硬くなって屋久杉やブナの巨木が枯れたり、非在来種の侵入による生態系の破壊も起きているという。これらの報道を聞くにつけ、いったい何のための登録だったのかと疑問に思わざるを得ない。知床が、その二の舞にならないければと願うものである。

振り返って、わが白山はどうであろうか？ 当会が設立当初（1990年設立）から大切にしてきた登山道に別山・市ノ瀬道（通称チブリ尾根登山道）がある。白山の数ある登山道の中でもほとんど人間の手が加えられていない貴重な登山道として私たちはこれまで大切に守ってきたという自負を持っている。ところがここ数年、巨木の天然更新が一気に進み、また登山者の増加などによりずいぶん様子が変わってきたという話を聞く。以前うっそうとした森が、ところどころで今はずいぶん明るくなってきたという。雪の重みで倒れかかった木を登山者にとって危ないからと

いうことで1本切ってしまうだけで森の雰囲気はずいぶんと異なってしまう。致し方のないことなのかもしれないが、個人的には出来るだけ自然のあるがままに任せたいという思いを持つ。白山が国立公園に昇格して既に40年以上が経過した。この間「変わらぬもの」もあれば「変わってしまったもの」もある。せめてこのチブリ登山道がいつまでも「変わらぬもの」の代表であり続けてもらいたいと願っている。

## 新入会員

北市 正 辻 郁 徳野久美子  
中村和子 橋本成男 (敬称略)

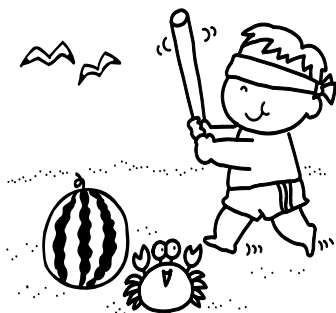
以上の皆さんです。  
今後とも、よろしく願います。  
辻さんから一言頂きました。

「入会をきっかけにして、自然と触れあっていたいです。また、白山の文化、自然、環境にも関わっていききたいと思いません。」

カンパありがとうございます

尾崎健二  
北市 正  
高桑照子  
加藤京子  
西部登喜枝  
山田美枝子  
(敬称略)

大切に使用させていただきます。



# 白山に思うこと

～日本人共有の  
故郷の山として～

北市 正（当会会員）

白山―。加賀平野からの優しく、神秘的な容姿。多くの静かな登山道や美しい沢、面積では白神山地にも劣らない広大なブナ林。一方で、随所に延びている林道や北方の稜線を貫くトンネル建設の計画など、白山は多くの魅力と問題点を持っています。また、白山は近代的な山岳文化では北アルプスなどに大きく出遅れている反面、この山に対する山岳信仰が全国に広まっている点も、大きな特徴と言えます。

それは、農耕文化に根ざした風土によって日本人が生まれながらに持つようになった自然への信仰心が、“白山”に名を借りて各地で受け継がれた結果のように思えます。白山信仰は、上（当時

の朝廷）からの押し付けではなく、下（地方の民衆）で自然に広まったのではないのでしょうか。

白山社は全国3000社とも言われ、地名だけを見れば、東京のド真中にも“白山”はあります。霊山として、より広く大衆化している富士山の浅間神社と比べても、その数は非常に多いと言えます。

白山社に祭られているのは菊理姫（くくりひめ）であり、「日本書紀」によると黄泉の国でイザナギとイザナミの争いを止めさせた神とされています。白山社が広がった背景には、国家による統制に思想的な正当性を持たせるための、政治的な思惑も当然あったでしょう。平安時代に記された「延喜式」神名帖に白山社の名が書かれていることも、その表れと言えます。

神社は、万物に精霊が宿るといふアニミズムによるものです。大和地方で、三輪山や大和三山など標高数百メ

ートルの低山が信仰されていた事からも、各地で身近にある山を信仰していたと考えるのが自然でしょう。そこに、白山社の広まりが重なり、身近な山を神聖視する土着の考えが“白山”の名を借りた信仰として広まったのではないのでしょうか。その“白山”は霊山として、また仏教の修行の場としても情報が制限されていた時代でも多くの人々に知られていた山です。

その事を考えた時、江戸期の「おかげまいり」と呼ばれる伊勢神宮参拝ブームのようなより民衆的な広まりを想像させます。“白山を守る”という事は、多くの日本人が共有する“故郷の山”を守る事でもあると、私は思います。そ

して、それは国や県からの押し付けではなく、民衆側の自発によるものでなくてはならないと思います。

さて、長野県知事の田中康夫氏は言っています。「天動説から地動説へ」と。これは、国が変わるのを待つのでは



白山の朝・御舎利山にて（北市民 撮影）

なく県政の改革を実行することです。国は脱ダム宣言という考えです。田中県政には賛否両論あるとは言え、一定の成果が現れていると言われています。国が救いの手段を講じなければ多くの会社が倒産すると言われた中小建設業は、福祉や農業などにシフトして生き残りを賭けて自発的に動き出しています。

学者集団でもなく、権力とも無縁な地方のNPO法人が多くの方に賛同をいただき、施政を変える事は容易ではありません。それには、かつての白山信仰で見られたような民衆的広まりが必要で、す。蠢動(しゅんどう)とは、漢字の通り春になって草木の下で虫がうごめき出す様を言います。現在、白山の自然保護問題は地元住民でも関心が少なく雪に埋もれた状態です。我々の地道な活動によって、その考えが多くの人に浸透して雪を解かし、や

がて春を迎え施政を動かしていく原動力になって欲しいと願って止みません。

## 釣舟草(ツリフネソウ)・黄釣舟(キツリフネ)

三坂 岳忠(当体会員 写真はキツリフネ)

花が赤紫色のツリフネソウは比較的近郊の山辺でよく見かけ、やや大柄。黄花のキツリフネは山地に多くやや繊細。溝・沢沿いなどの湿った所に生える水っぽい軟弱な一年草。細い花茎で吊り下がった独特の花を見れば名前に納得できますが、舟に見立てるには文学的センスが必

要かもしれません。ツリフネソウを知らない人でも、園芸植物のインパチエンス(アフリカホウセンカ)、昔の人ならホウセンカなら知っているでしょう。皆同じ仲間(属で、属名そのものがインパチエンス。

共通している大きな特徴はこれらの実です。植物の繁殖に、受粉と並んで重要なのは、実った種子を遠くへ運ぶ事です。この仲間は実が熟すと外皮が弾ける勢いで種子を周辺へ飛ばすという業を使います。カタバミなども似た方式です。

属名もそこから来ていて、*impatiens* は、がまんできない・くしたくてたまらない。キツリフネの種名 *noti-tangere* には触れると弾ける・さわるなど言う意味があるそうです。まるで地雷みたいな名前ですね。

子供の頃ホウセンカの実に触って弾け飛ぶのを面白がった人もいると思いますが、子供にとつてささやかな緊張感のある遊びも、彼らの繁殖戦略を手助けしていたかもしれませぬ。



# 白山登山回想

その2 吉田 外儀

当然、世間からは“狂気の沙汰”とまで言われました。また、多額の費用も壁となつて実行は不可能と言われました。

トは、その時代でも金沢宮林署、四高旅行部、金沢医大山岳部（当時）が部分的に足

しかし、新時代の白山登山処女ルートの開発と、国立公園候補地（当時）の未知の景観を世に紹介するといふ大義名分が、関係自治体から、試験援助者までを動かしたのである。

（このル

跡を印した記録しかありませんでした。）

そして翌1948年（昭和23年）3月に決行と決定しました。

ナイロン、シリコン、ビニール、プラスチック、デジタルなどの素材はもちろん、インスタント食品、携帯電話もない時代です。

防寒具、防水衣、登山用具、食糧、燃料など、どのようなものであったかは今から申し上げます。

以下は、日本山岳会石川支部創立20周年記念号『峰』（1967（昭和42）年6月発行）を参考にしたものです。

○ 1947（昭和22）年12月2日

支部例会にてメンバー最終決定。

◎ 積雪時白山山脈縦走

（御前峰より刀利峠まで40キロ）

1. 白山縦走本隊7名
- 30歳代2名

（隊長磯野三郎ほか1名）

20歳代4名

（以下氏名略）

10歳代1名

2. 援助隊白山隊6名

40歳代1名

20歳代5名（私はこのうちの1名）

3. 大門山出迎え隊9名

20歳代5名

10歳代4名

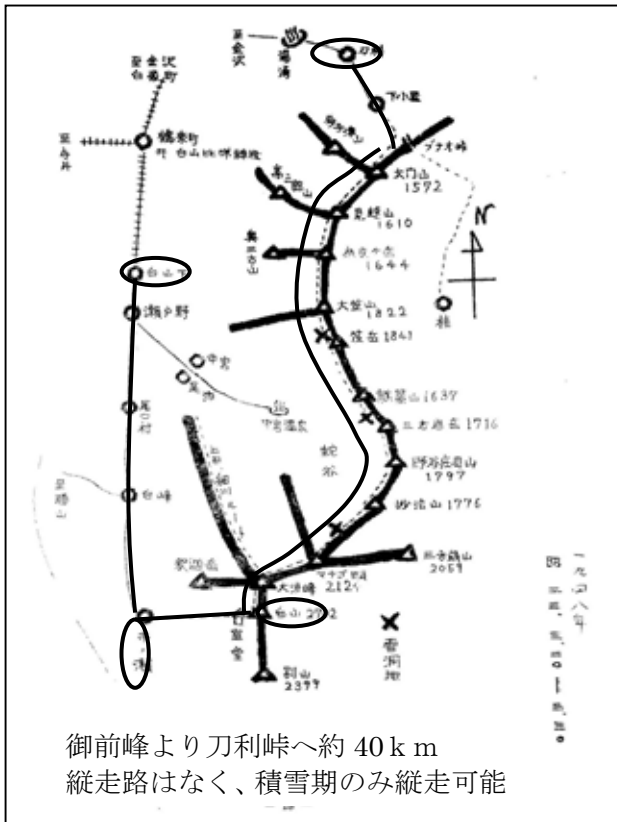
4. 連絡本部1名

20歳代

以上のメンバーにて12月末まで雪中行進、ザイル捌きなど練習を続ける。

○ 翌1月、携行品打ち合わせ、訓練スケジュール打ち合わせ

スキー、輪かん医王山などで訓練続行、鶴来月惜山にて雪調テスト、伝書鳩テスト。各方面、白峰村長、尾



御前峰より刀利峠へ約40km  
縦走路はなく、積雪期のみ縦走可能

口村長宛などへ依頼状発送。  
※伝書鳩↓ 北国毎日新聞社より四羽を借り受け、早朝放すも内一羽のみしか帰社せず。しかも24時間を要せり。他の三羽は遂に帰らず。また伝書鳩は荷がかさばるなど縦走には不適と判断”

○ 2月 連日訓練に明けく  
れる(大門山、医王山、挙  
原山など)。併行して本案  
の再検討、装備の再検討。

○ 3月 いよいよ決行の月  
となり、意気ますます壮。  
2日、磯野氏宅での例会に  
は深田久弥、麻生武治、毛利  
一雄氏らの大先輩をかこみ、  
いろいろの注意事項を参考  
となす。

3日〜7日 高三郎山雪  
洞および笈岳より以北大門  
山の偵察

9日 石川県庁、金沢市役  
所に援助方要請。

11日 身体検査、本隊全  
員。池田知幸医師(後の第二  
代支部長)担当。

連日、総打ち合わせ。荷物

軽量1人宛7貫(30キロ)  
を分担。厚生大臣より激励電  
報。商工会議所主催の壮行会  
などもあり。

○ 第一日目の3月20日

午前6時、北鉄白菊町発の  
電車で、多数の見送りを受け、  
縦走隊7名、白山援助隊6名  
計13名が出発。途中下車し  
て白山比咩神社の宮司自ら  
の13名全員の名前入り安  
全祈願祝詞を受けてから終  
点白山下駅(現在は廃止)に  
到着した。

白山下駅では松任農業高  
校山岳部員役10名が荷下  
ろしなどを手伝ってくれ、そ  
の励ましの声を背に受けて  
歩き出した。

全員が一人当たり30キ  
ロの荷を背負い、本隊は輪か  
ん、援助隊はスキーで、その  
夜は尾口村村長さん宅で一  
泊。基地の市ノ瀬永井旅館に  
到着したのは2日目の3月  
21日の午後8時であった。  
道は積雪、なだれ等で何度も  
川原に下りたり迂回したり

以下、次号

の難行であった。現代なら車  
で1時間足らずの行程であ  
らう。(当会会員)

### 「春の詩」に参加して

谷島智恵子

『カタクリ花の群生が見られるよ』と姉に誘われてほんの一時  
間位の散歩のつもりで参加したのですが、三時間コースの説明  
を受けてそんな長時間歩けるかなと不安になりやめておけば良  
かったと後悔しましたが、実際歩いてみると楽しくあつという  
間でした。日頃忙しく余裕など全くない私の心をカタクリの花、  
タムシバの花、イワウチワ達が癒してくれました。若い頃は華  
やかな洋花しか目に行きませんでした、三十歳を過ぎた頃か  
ら華やかさはないけれどじっと眺めて心なごむのは日本の花だ  
と気付き、特に山野草が好きになりました。山野草の名前はな  
ぜカタカナ表示なのでしょう？漢字名の方が情緒があつて素敵  
なのに、ちよつと残念です。

あの日は軽い気持ちで参加しましたが私にいろいろ考えさせ  
てくれる散策でもありました。昨年はエサ不足の為、熊が人里  
に降りて来きて射殺されるという大変悲しい出来事があり、害  
虫の被害で木の実がならず、熊やその他の動物たちだけがかわ  
いそうで仕方なかったのですが、害虫のせいで弱っている樹木  
を目の当たりにした時、熊たちだけじゃないんだ、この木も大  
変なんだ、と急に愛しくなり思わず頑張つてと摩つてしまいま  
した。またカタクリの花を踏みそうになつたり踏まれた花を見  
た時はあまりこんなところに入っちゃいけないかも、私たち人  
間は心のみりフレッシュできるけど山野草にとつては迷惑な事  
だらうなあと思いました。

最後に皆さんと一緒に弁当を食べられなかった事がとても  
残念でしたが、楽しく素敵な時間を過ごさせて頂きありがと  
うございました。

## 吉次山周辺

### 自然観察会に

### 参加して

長田美枝子

5月22日、新聞で募集していた「白山の自然を考える会」主催の自然観察会に出かけました。当日は朝から曇り空で集合場所のJA湯涌前に着く頃には小雨模様。担当の方のお話と簡単な自己紹介の後、参加者十数名は登山口に至る林道中程迄車で移動してその後は歩いていきました。途中、雨もやんで薫る風も心地よく小鳥のさえずり、木々の緑と色とりどりを添える花々、道路脇の草本、それぞれに詳しく説明して下さる方達がいいて、初めての参加でしたが凄く楽しい気分でした。

登山口手前の広場からは、

眼下に金沢市街と目の前に医王山、戸室山、キゴ山の三山が連なり、素晴らしい眺めを見ることが出来ました。

登山口から少し急登を行くとイワウチワの群生があり、時期が遅くて名残の花がわずかに見られるだけでした。しばらく急登を行くとブナ林が広がり、更に登るとリョウブとヤシヤブシの林があり、低山ながらもいろいろな景色を見ることが出来ました。頂上で昼食、休憩の後、50m程先へ下った展望台に行き、残雪の猿ヶ山く大門く高三郎く大笠と連なる峰々の美しさにしばしば眺め入りました。私たちは時々山歩きに出かけますがひたすら頂上を目指した登りで、今回のようにまわりの自然をゆっくりと観察しながらの歩きは新たな発見が沢山あり、学ぶことや反省すべき点も多く、参加してとても良かったと思えました。

私達の住んでいる町から

はとても姿の良い白山を眺めることが出来、子どもの頃から慣れ親しんでおります。ふる里石川の財産である白山も登るたびにまるで庭園の様に整備が進み、あろう事かこの山をぶち抜いてトンネル迄を通そうという計画があると。この美しい自然をどこまで傷つけようとしているのか、心が痛みます。地球温暖化も深刻さが増している昨今、自然保護の問題を一人一人が最も重大な事として考えなくてはいいけな



いと思いません。

機会ありましたら清掃登山等にも行きたいと主人とも話し合っております。この様な会の輪が広がっていく事を願っております。

## 村上 秀明

(当会理事)

5月22日、JA湯涌の前に集合。参加者14名(非会員3名、熊森より2名、会員9名)。

鼻尾から少し上がった林道に車を止め歩き始める。今にも降り出しそうな空模様だ。天気予報では、昼から雨となっている。

すっかり葉を茂らせた木々の若葉が新鮮で美しい。トネリコ、ガズミ、アズキナシなどの白い花が今を盛りと咲いている。

春を告げるホトトギスの鳴き声が聞こえてきた。この声を聞くと何となく気持ちが悪くなる。同じ仲間にカッコウツツドリ、ジュウイチなどがあるが、みんな他の鳥の巢に卵を産み付けるちゃっかりものだ。

やがて林道はS字カーブとなり白見谷を俯瞰できる絶好の場所になる。

みんな一斉に谷をのぞき

込むが誰もいない。時々沢を歩いている人がいるらしい。新緑の谷にタニウツギの赤い花がよく目立っていた。

長い林道歩きもようやく終わって採石場につく。ここからいよいよ登山道にはいる。ブナ林の中からコルリ・キビタキ・ヤマガラ・コガラ・ヒガラなどの鳴き声が聞こえてくる。ジュウイチもよく鳴いていた。

姿は見られないがよく通る声で「ジュウイチ、ジュウイチ、ジュウイチ……」としつこいほど何度も繰り返していた。

11時に吉次山山頂に着く。ここでゆっくりと昼食をとり、少し先に見晴らしのいい所があるので空荷でいくことにした。

そこはすばらしい展望が開けていた。

大門・見越・奥三方・大笠をバックに、まだ雪渓を残す高三郎の鋭鋒が勇壮ではあるが慎ましく控えていた。

帰りの林道でカモシカと

対面、荒木さんと一緒に歩いていた熊森の女性たちもびつくり仰天、それ以上にカモシカもさぞびつくりしたことだろう。



犀川ダムが出来る以前、ダム湖に沈む倉谷集落は結構な賑わいを見せていたという。

金山谷は鉾山採掘があり小矢部川側や直海谷川側など峰越えでのルートも多く存在したらしい。犀川沿いに金沢に出るよりも街に出るむしろ安全なルートだったというから驚きである。さて現在の人工的要塞のダム湖を避ける、もう一つのアクセスルートが、内川からのルートである。内川ラインも古来いくつか存在したという。内川の東谷を源流近くまで詰めて二又川の白山谷を下降して本流に出て、今度はヤスタテ谷を詰めて稜線を越えて内川の西谷を下降する、周遊プランを企画した。雪が白山に舞い始めた11月初旬のことだった。

内川の二俣に車を置いて東谷の林道に入る。東谷は平凡なゴロの谷。標高900m手前で稜線に出ると美し

いブナ巨木が出迎えてくれる。稜線の反対側は二又川だ。白山谷の右支流の平凡なゴロを下るとやがて白山谷の本流。このあたりからゴミが点在するのは釣り師が入っているからだろう。釣り師にはなぜかこの手のばればれのゴミ捨てあほうが多い。

登っていくと谷は左へ屈曲すると、おおくと出たあ！20mの直瀑。その上に立派なスラブ滝も垣間見える。直瀑を左岸から巻いてスラブ滝の取り付きに出る。段々にせり上がり本流は左に屈曲、正面にはスラブ滝の支流。これもスラブでこのあたりの

## 白山を巡る沢の旅（その13）

我が家の里川・犀川源流の溪谷群「幻の大滝」IV

鮎川 正

まもなく連瀑のミニゴルジュが出てくるが、右岸の巻き道からすんなり通過。これも釣り師のなせる業。やがて懐かしい二又川本流である。秋色に染まり落ち葉を踏みしめ静かな流れの上流を少し行くすぐに目指すヤスタテ谷。出合いには小さな滝がかり貧相な印象だが。

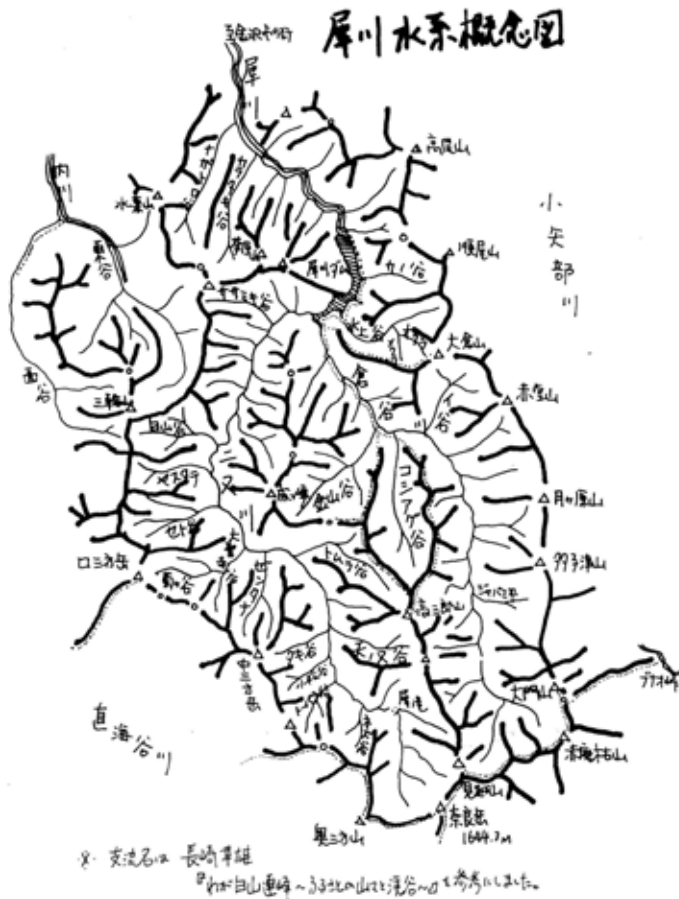
ヤスタテ谷に入り小滝を

空間的な広がりを感じる。地形図からある程度は読んでいたがこれほどの大きさは予想外。一枚岩のスラブ滝は豪雪地帯の白山には数多く存在するが、このヤスタテ谷の大スラブ、面的な大きさではなかなかの規模である。

さて大スラブ滝。まずは右壁の階段状岩場をノーロー

プで上がり、傾斜の増した途中のテラスでアンザイレン。左上バンドを辿り、水流を横断、下から見える落ち口テラスまで上がる。30m一杯。しかしテラスの支点が悪く、ビレイヤーに中段まで上がってもらい、更に緩いスラブを20m上がり、安定した大テラスに出る。スラブ滝の最下段目の落ち口か。ここに大釜があり、有名な上越の三つ釜風である。盛夏ならばゆっくると釜に浸かるのも楽しいだろう。後続の二人に上がってもらい、更に水流左のスラブを直上するも行き詰まる。なにせ支点が取りにくいというか全く取れない。いったん後退し、大テラスを左岸側へトラバース。大釜の縁を横切りスラブ右壁に出る。

再び左上バンドからスラブを直上。乾いた水際を狙うが、やっぱり支点が取れず、根性なく断念。草付スラブの直上に切り替える。正面の支流のスラブの右壁に当たるライン。結局ここもノーピン



大スラブ滝前衛滝

で30m直上して、小レッジ  
 できるようピン2本でビレ  
 イ。核心部分は抜けた感じ。  
 最後は支流のスラブの水流  
 を横断し左へトラバースし  
 て、大スラブ滝の落ち口付近  
 に出る。おまけのように8m  
 ほどのトイ状滝が更に続け  
 てあるので、左岸ブッシュか  
 らそのままロープをつけて  
 登れば、谷はようやくゴーロ

になる。トータル7ピッチ。  
 傾斜は緩いがやはりフリク  
 ション頼みのスラブは、支  
 点が取れず恐いのであった。  
 落ち口からの風景の余韻  
 に浸りながらロープを仕舞  
 う。それにしても、二段の大  
 スラブ滝は見事というしか  
 ない。蛇谷のコヤ谷右俣の  
 スラブ滝二つをあわせたよう  
 なスケール感覚か。古来の倉

谷集落の人もこの大滝を目  
 にして何を想ったのだろう  
 か。  
 この先でビバークポイン  
 トを探すが手ごろなところ  
 がなく、源流部までいってし  
 まう。源流二又の一段上の台  
 地に手ごろな平坦地を見つ  
 けてビバーク。  
 翌日二俣を右に入れば6  
 mほどのナメ滝。ロープを出

すがやっぱりスラブに泣か  
 される。落ち口へのわずかな  
 トラバースだが、支点なしは  
 やっぱり恐い。源流部は問題  
 なく、詰めの藪も薄く105  
 9mピークへ。三角点で大休  
 止。枯れ木の合間から反対側  
 の内川を覗く。晩秋の気配を  
 感じながら、西俣を駆け下り  
 二俣の車まで。二又川探索の  
 一年を締めくくった。  
 ヤスタテ谷の大スラブ滝  
 は驚きの発見。こんな身近に  
 も素晴らしい谷はひっそり  
 と眠っている、好例ともい  
 える沢旅だった。(当会会員)

# でかけてみませんか

8月27日(土)、28日(日)

白山登山

光ケーブル埋設跡や砂防堰堤など、本会独自の視点で登ります。

安全面等を考慮し、10名(先着)とさせていただきます。

締切り8月17日(水)

連絡：加藤 正現

9月11日(日)

チブリ尾根草刈り

6時 鶴来・道の駅しらやまさん

連絡：米山 豊

9月25日(日)

子ども秋のクリーン活動 岩屋俣谷

8時 鶴来・道の駅しらやまさん

連絡：加藤 正現

10月9日(日)

白山ろく見て歩き

9時 鶴来道の駅しらやまさん

連絡：垣本 哲夫

11月6日(日)

生物部会 自然観察会

医王山(大池から白はげ山へ)

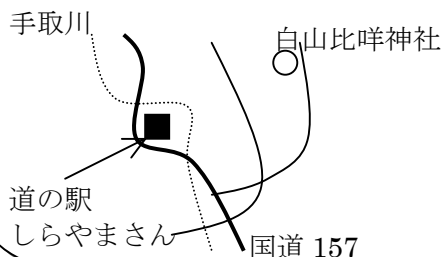
7時30分

どんぐり茶屋向かいの駐車場

連絡：村上 秀明

## ご注意

これまで白山方面へ行く場合の**集合場所**は白山比咩神社でしたが、今後は、**道の駅しらやまさん**といたします。お間違えないように。



「環境について考える  
第6回」

デンマークの挑戦（その2）  
自転車とまちづくり編

三津野 真澄

前回に続いて今回もデンマークの紹介をしましょう。風力やバイオマスなど自然エネルギーを活用してエネルギー自給率139%（つまり輸出もしている）を達成し、二酸化炭素排出量を2005年までに25%もの削減（1988年比較）に成功したデンマーク。この環境改善へ取り組み姿勢は、まちづくりや交通システムといった

分野でも垣間見ることができそうです。

デンマーク第二の都市、オーフス市。ユトランド半島北東部に位置する人口40万人の港町であり、文教都市としても知られています。かつてこのオーフスでの主な交通手段は自動車でした。車優先型の都市計画を行った結果、ビュンビュン走る車を避けて歩行者が恐る恐る歩くという光景がみられたそうです。

ところが1993年、自転車中心の新都市計画が発表されます。その概要は次のようなものでした。

- ・市内の主な道路は自動車通行禁止とし自転車と歩行者のみが通れるようにする
- ・車通行可の道には自転車走行ゾーンと歩道を完備する
- ・駐輪所を各所に設け、電車やバスにも自転車を乗せやすいよう車両と駅を改造する

る  
・コンクリートで蓋をされ駐車場になつていたオーフス川は、蓋を撤去して運河と歩道を復活する

私が訪れた3月、自転車通行ゾーンは路面を水色で塗られるなどしてはつきりと区別され、颯爽とペダルをこいで職場や学校へ向かう人々で一杯でした。また国鉄やローカル線の車両には入口の扉に自転車マークが描かれ、ここには広い自転車スペースが確保されています。駅の中まで自転車をこいで入りそのまま車両に向かう人もいるくらいです。

このオーフス大改革は着工から完成までわずか3年という短期間で行われました。どのようにして市は改革プランを作り上げ、住民の賛成を得たのでしょうか。

最初は「車通行禁止とする」と買ひ物客が他の町に流れ

て売上が減る」と商店街の人々は反対したそうです。これに対して市は、まず詳細に計画案を情報公開し、地区ごとに住民と話し合いをもつて人々の意見を拾い上げ、修正案を練り直し、再度話し合いを持って……、という繰り返しをしました。粘り強くみんなんで考え「合意」を練り上げた結果、実行段階ではスムーズに運んだのです。

さらに市や企業は自転車通勤を奨励し、「自転車通勤した人は抽選でグリーンランド旅行にご招待！」というキャンペーンもあって、一気に自転車通勤が広まったそうです。

心配された商店街はどう



だったのでしようか？ 実は歩行者と自転車が増えお店に活気が戻り、売上も増えたのです。コンクリートの蓋を外し運河を復活させた地



自転車通行帯は車道、歩道と明確に区別され、このようにカラー舗装化されているものも多い。

区では、水辺にカフェやレストランが次々とオープンし、春から夏には屋外でビール片手に食事を楽しむ人々で一杯だそうです。



オフィスでは郵便配達も自転車。とても楽しそうに配達していました。

排気ガスも騒音もなくなり町に賑わいが戻ったオフィス市。「合意（コンセンサス）会議」の成果を、いま市民は喜びあっているのです。

（当会会員）



オフィス市に限らずデンマークでの主要交通手段は自転車。通勤時には町に多くの自転車が行き交う。

## 会費納入のお願い

宛名シールの右下の数字は会費の納入年度です。「05」以前の方、会費の納入をお願い致します。あなたの会費の納入が、白山の自然を守ることにつながります。

（事務局より）

## 編集後記

土日に休めないため、会の行事にはなかなか参加できません。この前、久しぶりに、カジカガエルの鳴き声を聴きに瀬波（トシネルルート）の1つへ行ってきました。独特の声を聴きながら、川の水を沸かしてコーヒーを。帰りにはカモシカの親子と御対面。やっぱり自然と同化するっていいもんですね。

（深田和人）